

教育課程企画特別部会における意見発表資料

**1 部活動の教育的効果等について**・・・高校生に求められる資質・能力の育成や健全育成の観点から以下のような点において、教育課程に基づく学校教育活動の効果をさらに高める役割を果たしている。

- (1) 体力の維持・向上と生涯スポーツに繋がる運動技能の習得
  - 健康で、より豊かな生活を送るための前提となる「体力の維持・向上」に加え、生涯に亘って運動に親しむための「基本的な技能」を習得できる
- (2) 社会性を育む
  - 「自己理解」と「他者理解」、「自己肯定感」と「自己有用感」等の育成
  - 人間関係が希薄化する社会にあって多くの仲間（縦横の人間関係）や顧問教員等と目標達成に向けた努力や課題を共有
- (3) 精神性を育む
  - 目標を達成するまでの過程の中で、様々な障壁や葛藤を乗り越える経験を通して「強い精神力」と「柔軟な対応力」等の醸成
- (4) 規範意識の醸成
  - 共通するルールを遵守することで、集団内における個としての在り方や行動規範の学習による規範意識の醸成
- (5) 各競技種目における技術力の向上
  - 各競技種目における小・中・高校・大学を一貫する指導体制・方針・方向性を共有することで各競技種目の技術力向上に繋げる

**2 部活動を取巻く現状の諸課題について**

- (1) 持続的な指導体制の確保に係る問題
  - 部活動顧問教員の負担感・多忙感
  - 外部指導者の活用
  - 高い意識・使命感等を有した指導者の育成、スポーツに関する科学的知見や指導者や仲間との言語活動を重視した指導者教育
- (2) 運動環境の整備
  - 学校内・外の施設設備の整備と充実
  - 地域を中心とした受入れ体制の整備と充実
- (3) 勝利至上主義がもたらす課題
  - スポーツが有する「文化性」と「競技性（勝ち負け）」の整理
  - 体罰等不適切な指導の問題
  - 科学的知見に基づく休養日の設定
- (4) 部活動の教育的効果を他の教育活動でも得られるようにすることが重要
  - 部活動のみならず、教育課程内外の学校教育活動でいかに実現していくか

**3 教育課程に基づく教育活動と部活動の相乗効果を高めるために**

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」と部活動（体育の見方・考え方と部活動）
- (2) 部活動の時間のみならず個々の生活や生涯全体を見渡しバランスのとれた生活や成長に配慮する

**4 持続的な指導体制の確保に向けて**

- (1) 「部活動」か「社会体育」か、という対立的な捉え方ではなく、地域・社会全体で生徒の豊かなスポーツライフを支えるという視点
- (2) 持続的な部活動の指導体制の確保について、各学校任せではなく、国、教育委員会、関係団体、地域等の関係者で検討する体制づくり

以上